

対中国戦の拠点基地に！岩国基地の危険な変容

吉岡光則（山口県AALA理事長）

岩国基地はいま

（1）米軍の二つの「殴り込み部隊」の基地。一つは、第3海兵遠征軍第1海兵航空団第12飛行大隊で、主力はF-35Bステルス戦闘機（短距離離陸垂直着陸機）とKC-130J空中給油機。もう一つは、太平洋艦隊第7艦隊第5空母打撃群第5空母航空団（昨年未から原子力空母J.ワシントンの艦載機）で、主力は、FA-18戦闘攻撃機スーパーホーネット、F-35Cステルス戦闘機。それに艦上輸送機としてCMV22オスプレイが4機加わりました。所属機数は合わせて130機近くとなり、嘉手納と並ぶ極東最大の航空基地です。（海上自衛隊の第31航空群・第111航空隊も配備されていますが省略）

（2）西太平洋では唯一の滑走路と長さ360mのバースと港湾施設を併せ持つ「重宝」な基地。「爆音軽減・市街地への墜落回避」を名目に行った「滑走路沖合移設」という新基地建設の結果です。（住民要求を逆手にとって米軍の目論見を実行するのは政府の常套手段）

（3）米軍の目論見とは、朝鮮半島に対する使い捨ての前線基地だった岩国基地を、米4軍全ての航空部隊の出撃かつ兵站の拠点にすることだったと思われます。実際に、空軍の戦略爆撃機・戦闘機・攻撃機や陸軍の攻撃ヘリなどが飛来し、新設された港湾には、様々な戦闘艦船や輸送船がで頻繁に寄港しています。

（4）22年6月からのACE訓練、24年7月からの“レゾリュート・ドラゴン”、同年10月からの“キーン・ソード25”など対中国戦を想定した共同演習は、上記3）で述べた岩国基地の「役割」とその危険性の一端をまざまざと見せつけました。



岩国基地に入った強襲揚陸艦アメリカ（吉岡撮影）



垂直着陸するF-35B（吉岡撮影）



岩国基地に配備された海軍のCMV-22オスプレイ（吉岡撮影）

22年6月

空軍の遠征戦闘飛行隊のF-35A（アラスカ）やF-22A 24年（ハワイ）が飛来し、岩国のF-35Bと東シナ海で、中国を威圧するための大規模なACE訓練を行いました。これに抗して中国軍機がスクランブル発進し、一触即発状況になったと言われます。

※**遠征戦闘飛行隊**：空軍が駐留していない基地に一時的に設置する遠征航空団に所属する部隊

※**ACE**：Agile Combat Employment「迅速機敏な戦力展開」の意。アメリカ空軍が対中国を念頭に考案した戦術。前進航空基地において、敵の攻撃にかかわらず戦闘能力を行使し続け、生存性を高める機動作戦。

24年7月

海兵隊のMV-22（普天間）と空軍のCV-22（横田）が、岩国基地を拠点に、陸自とともに人員・物資の輸送、負傷者搬送などの訓練を行い“レゾリュート・ドラゴン”の一端を担いました。

24年10月

“キーン・ソード25”の一環として、岩国基地では、陸自第17普通科連隊と米海兵隊による共同基地等警備訓練、陸自第13施設隊と第12海兵飛行大隊第171海兵航空支援師団中隊による滑走路復旧訓練、統合防空ミサイル防衛訓練や統合対艦訓練として空自三沢基地のF-35A（6機）とE-2D早期警戒機（1機）が米海兵隊のF-35BやF/A-18とともに四国沖の訓練空域で共同訓練を行った。海自第31航空群の航空機も統合対艦攻撃訓練に参加。

29日には、岩国基地の港湾に海自呉基地の護衛艦「いなづま」（艦隊間誘導弾ハブーン4連発射筒1基、VLS装置＝対空ミサイルや対艦魚雷などを垂直に発射する装置1基などを装備）が接岸。江田島の呉弾薬補給整備所が有事に攻撃を受けるなどした場合に、米軍施設を使えるかどうかを検証するために、同補給所から陸上輸送された弾薬の格納容器（キャニスター）を、米海軍と米海兵隊の協力によって、クレーンで「いなづま」の発射装置に搭載し、キャニスターが規定通りVLSに納まっているかを検証した後、キャ

ニスターを引き揚げて地上に降ろすまでの訓練と検証を行った。

24,7.28～8.7 米海兵隊・陸上自衛隊の共同訓練「レゾリュート・ドラゴン」

普天間からMV 22 オスプレイが岩国に飛来し、大分県・熊本県の演習場などに向かい、陸自とともに人員・物資の輸送、負傷者搬送などの訓練。岩国基地からKC 130も2機程度加わる。

24,10.23～11.1 全国各地の米軍・自衛隊基地で日米統合実働演習キーン・ソード 25

日米の統合運用能力の維持・向上を図るため、陸上・海上・航空作戦、統合輸送の全てを含む総合的実働演習。岩国基地では、陸自第17普通科連隊と米海兵隊による共同基地等警備訓練、陸自第13施設隊と第12海兵飛行大隊第171海兵航空支援師団中隊による滑走路復旧訓練、統合防空ミサイル防衛訓練や統合対艦訓練として空自三沢基地のF-35A（6機）とE-2D早期警戒機（1機）が米海兵隊のF-35BやF/A-18とともに四国沖の訓練空域で共同訓練を行った。海自第31航空群の航空機も統合対艦攻撃訓練に参加。

この訓練は報道に公開され、訓練を視察した米海兵隊岩国基地司令官は「後方補給と訓練資材を用いた弾薬搭載訓練は、岩国基地が海軍の東方前方展開基地として毎日行っている運用のほんの一部」「この訓練を計画・実施した陸自第13旅団と海自第31航空群の支援に感謝したい。日々、基地をサポートしてくれる市と中四国防衛局にも感謝する。私たちは真にひとつのチーム」「キーン・ソードは日米の機能を統合する素晴らしい機会。境目のない機能を発展させていくよい機会と思う。ひとつ一つのスキルをそれぞれが持ち合わせており、今回の弾薬搭載演習もよい例。こういう演習を行うことで即応体制が確立できる。即応体制こそが抑止力として働く」と述べた。（『日刊いわくに』より 抜粋）

（了）